

平成29年度のさくら幼稚園自己評価結果を報告します。

学校法人敷島学園 さくら幼稚園

1. さくら幼稚園の教育目標

- * 健康 元気で正しく歩む子ども
- * 和敬 豊かで美しい心の子ども
- * 快活 明るくはっきり言える子ども

2. 教育方針

建学の精神である「健康・和敬・快活」を教育目標とし、創立以来50年の歴史と伝統の上に、よりよい環境の中で、多彩な行事や体験を通して豊かな感情を養い、一人ひとりの心づくり、体力づくりに努めることとし、下記の方針のもと「特色ある幼児教育」を追求する。

- * 子どもの自主性を育て、遊びを通して豊かな人間性を育む。
- * 「本もの」に出合える保育を追求し、Only Oneを育てる。
- * 人と関わり、地域社会への貢献につながる行事の工夫。
- * いのちと安全を守る力を育てる。
- * 教職員の指導力を高めつつ、一人ひとりの園児の実態を、全職員が共通理解することにより、行き届いた保育と質の高い教育ができるように努める。
- * 多彩で豊かな園行事の実施
- * 子育て支援の充実

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

教育方針をさらに深化し、地域における子育て支援活動の充実を目標として、積極的に未就園児を持つ保護者(幼児)ともふれ合い活動を実施する。

- * 遊びの指導と工夫
- * 読書活動の推進
- * 専門教育(英会話・茶道・体操・器楽・絵画)の実施継続
- * 教職員資質向上のための園内外研修の実施
- * 園舎新築に伴う、環境の整備
- * 未就園児とのふれ合いを中心とした「さくらんぼ広場」の充実
- * 預かり保育の充実

4. 評価目標の達成及び取り組み状況

下表の大評価項目をさらに分野ごとに小評価項目を設定し、全職員による自己評価を行った。(結果要約)

評価項目(大)	取り組み状況及び結果
保育の計画性 教育理念・教育方針・指導計画・環境の構成	大半が達成されていると評価。 ・ 年間の見直しを持つこと。 ・ 年度初めに園内研修にて、園の教育理念・方針の確認について園長講話を行い、職員の意識の統一を図ると共に、共通理解を深める。 ・ 教育課程、指導計画の見直しをはかると共に、加筆、訂正を行う。 ・ 行事計画を主任者会議等で話し合う機会を持ち、子どもの実態に即した内容になるように努める。 ・ 計画、実施、評価、改善を日常的に行う。 ・ 大切な事を意識するための指導計画を立てて、子どもの小さな変化を読み取る事。 ・ 評価項目に従って自己点検を行い、自己評価を実施する。
個人記録の作成・保育と計画の評価及び反省	大半が達成されていると評価。 ・ 行事ごとに反省会を行い、外部からの評価等を検討。また、学期ごとに自己点検・自己評価を行う。 ・ 日々の記録を参考にして、子どもの実態を把握。また、担任以外でも都度の気づきを互いに連絡し合い、次の保育に反映させるようにしている。
保育の在り方・幼児への反応 健康と安全・幼児のみとり・指導とかかわり・保育者同士の連携	大半が達成されていると評価。 ・ 月1回以上の遊具及び園全体の安全点検を行う。安全第一を職員の合言葉とし、毎日の保育室の点検、また、消毒・除菌に努め、園児がより良い環境で過ごせるようにする。 ・ 配慮を必要とする園児について、全職員での共通理解をはかる。 ・ 学年間だけではなく、各学年主任間との連絡を密にし、「報・連・相」を大切にする。 ・ 幼稚園での一つひとつの活動を楽しみ、幼稚園が好きになるように心掛ける。 ・ 子どもが一日安心して過ごせる環境作りと、自信を持って自己を発揮できるよう場所の確保をする。

教師としての資質や能力・良識・適正 専門家としての資質能力及び良識・組織の一員としての在り方	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 全職員による研修を行う。「安全第一・報連相・プロ意識での考動・笑顔愛語」を合言葉に、個々に組織の一員であることを心掛ける。また、学期ごとに自己点検・評価反省を行う。 教職員の資質向上のため自己研修に努め、考動すること。 道具や時間の使い方、また、仕事の上手な簡素化を図る。 「何事も丁寧に…」が、質の高い教育と保育をもたらす。 学年同士の話し合いを密にし、お互いの意見やクラスの様子等を十分伝え合い、保育に活かせるようにしていく必要がある。 疑問に思った事やわからない事などは、すぐに先輩の先生に相談することができた。
保護者への反応 情報の発信と受信・協力と支援	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> ホームページをリニューアルし、見やすく現代的にすることで、より多くの閲覧の手ごたえがあった。 入園案内やチラシに、園の特化した事柄をわかりやすく具体的に示し、知らせること。魅力的なひと言—キャッチコピーに置き換えて、インパクトのあるものにする。 保護者への情報提供として、園より・園長通信・種々のお知らせ、園サイト・連絡帳の活用・伝聞等で家庭との連絡をとる他、参観日・行事を通して子どもの成長を実感できる機会を設けた。 保護者参加型の行事や催しの仕組みづくりをすること。保護者の人数の多さがプラスに働く。
地域の自然や社会とのかかわり 地域の人々とのかかわり・小学校との連携	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 来園者と会い談話する中、応援者がますます増えてきた事を実感。 自慢できる事、やり方等、地域で語り合える環境をつくる事。
研修と研究 研修や研究への意欲・専門性・園内研修	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 新しい情報を素早くキャッチし、耳を傾けること。心を届けること。自分も出向くこと。 園内研修の反省やアドバイスから、設定保育・自由保育の垣根を越えたスムーズな遊びを提案できるよう心掛けたい。 「本もの」に出合える保育を追求できるよう、知識だけでなく自分自身も楽しみながら体や感覚を使い、技術を身につけられるような研修に参加したい。 自分の特技を生かし、楽しみながら保育できる環境である。 小さなことを継続してこそ実を結び、実行に移すことで変化をもたらす。
子育て支援の充実	満3歳児保育及び預かり保育の充実を目指す。就労の母親が増え、早期入園・長時間保育の希望者が多くなったことから、子どもの居場所の確保と通常保育終了後は、家庭的な雰囲気の中での預かり保育を心掛けている。
特別支援教育	家庭、また医療・リハビリセンター等の専門機関との連携をはかり、個々の園児に対応して支援の計画及び保育にあたれるよう努める。
財務運営の状況	監事監査、公認会計士検査を受けており、当園の財務は適正かつ正確であると評価されている。園運営においても、適正に運営されており、活気があると評価された。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由・感想
B	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・自己評価の実施により、保育の振り返りが見られた。 それぞれの学年に、年齢による保育の違いがあることを改めて感じた。それぞれに異なる面白さがあり、それに気付くだけでも保育に対する思いが変わり、楽しんで保育ができるようになった。 すぐに役立つ安易なものに頼りすぎると、自分の身につかない事が多い。 本ものは、必ず残る。本ものになれるかどうか、本ものになるための努力をすることが仕事。 安心できて楽しく遊べる環境—怪げなく過ごせる物的環境、どんなときも素早く対応できる人的環境。 社会のニュース、ニーズに敏感になれるよう意識する。 説明責任を果たすこと。 専門性で信頼を得ること。 両親共に就労の家族が増え、子育て支援を望む声が多くなってきた現状を踏まえ、アットホームな雰囲気や預かり保育や安らげる空間作りが進められており、子どもも保護者も共に安心できる環境を整える事ができた。

評価結果の表示方法 A:できた B:まあまあできた C:できなかった

今後の取り組むべき課題

- 子ども達の成長に応じた遊びの展開がもっとできたのではないかな。さらに、自分自身の指導力を身に付ける必要がある。
- 事前に計画を立てているつもりでも気付いていないことがあったことから、計画的に進めていく必要がある。
- 園児への安全教育の計画を見直し、突発的に起こりうる地震や災害に備える必要がある。
- 目的と手段、自分の行動を考え、何を一番にすべきか、目の前の仕事に振り回されないようにすること。
- 先を見越した準備や行動力。なすべき事の優先順位をつけて、効率よく仕事すること。
- 現状に甘んじることなく、謙虚に自己研鑽に努めること。